

フィリピン滞在記 ⑰---2年間の活動を終えて日本に帰国

ルソン大学日本語教師 為我井輝忠

2年間にわたって続けてきたフィリピンでの仕事もやっと終わった。「やっと」という言葉には、私にとっては「ついに終わった」という意味合いが強い。しかし、まだ続けたいという気持ちもいささかあったが、一応は締めくくりとして、終了した。

11月8日に日本に戻って来た。久しぶりの日本は冬に向かう最中の時期で、成田の地を踏んだ時にあまりにも寒いのは驚いた。30度近いフィリピンから14～15度の日本に戻ってきて、まず感じたことはこの寒さである。帰国して

から1週間は寒くて風邪を引きそうだったので外に出たくなかった。徐々に体を慣らさなければならぬと思ったからである。

さて、前回私の誕生日のことについて書いてみたが、その後のことはまだ何も書いていないので、フィリピンでの最後の出来事について少々書いてみたい。

ルソン大学の授業は10月18日の最終試験ですべて終えたが、最終的に試験の結果と評価を大学当局に出すためにコンピューターに入力した。その作業は私には複雑すぎて難しかったので、アシスタントにすべてやってもらった。フィリピンでの大学は日本と同じように、すべてコンピューター化が進んでいて、こんなに進んでいるのかと、いささか驚かされた面もあった。

その後20日に大学当局が私の送別会を開いてくれた。私が教えた観光学科の学生の出席のもとで、その学科の主任教授や日本語クラスの事務的

なことを担当してくれた教授や関係者が出席してくださった。また、私の関係者も何人か招いてくれた。

送別会 (Send-Off Ceremony) は次の通りであった。

1. Opening Prayer :
Ronith Casuga (2nd Year Tourism Student)
2. Opening Remarks :
Dr. Amalia G. Dela Cruz
3. Special Message :
Mr. Shinji Okumura
4. Special Message :
Mr. Terutada Tamegai
5. Closing Remarks :

Dr. Donna Joy A. Mangada

6. Thank's Messages from the Students
と言う具合で、1時間半ほどの式であった。終始、心温まるメッセージをいただき、大いに感激した。特に、最後の3人の学生の謝辞は1年間の感想や授業のことなど、忘れられない思い出をそれぞれ述べてくれた。私はこの式に出るまでは、これで終わるという実感がなく、まだ授業があるかのような思いを抱いていたが、これでやっと終了したと納得した。式の後には写真撮影となり、しばし学生や先生方との写真を撮った。

最後に、有志の学生や先生方による浴衣の試着が行われた。これは私の関係するグループが大学に寄贈したもので、今回最後に着ていただいた。

1年間は実に有意義であった。それまでの1年間教えていた学生はあまり積極的にやる気がなく、教えていても熱心な学生は少なかったが、今回の学生たちは積極的にやろうとする気持ちが



1年間の学習成果について述べた



大学からの感謝状をいただく

強く、何でも興味を示してくれた。学生たちは観光学科のホテル・レストランマネジメント専攻だったので、日本語に興味を持ったのかもしれない。日本語クラスの学生たちの半数は今タイで研修を受け、来年3月に戻って来るそうである。日本語を学んだことが少しでも役に立ってくれることを期待したい。

送別会が済むと、あとは急に慌ただしくなった。帰国は11月8日であったが、学生たちが一緒に旅行したいということになり、4年生の学生たちとザンバレスというビーチ・リゾートへ出かけた(これは私の誕生日を兼ねたもので、これについてはすでに前号で記した)。

またアパート内の荷物の整理をしなければならず、以前から少しずつ整理はしていたが、大半はまだの状態であった。冷蔵庫、ダイニング・テーブル、応接セット、ベッド、クーラー、洗濯機、



着物を着た有志や来賓と共に

扇風機などは備え付けの家具であったので、そのまま大丈夫であったが、デスク、2台目のベッドとクーラーは私が持ち込んだものなので持ち出さなければならない。また使用した台所用品はかなりあり、ほとんどはアシスタントに譲った。フィリピンで購入した書籍と雑誌は帰国の際荷物として持ち帰るのはあまりにも多いので、郵便で送ることにした。段ボール2個分もあった。後日郵便局に持って行き、重量を計ってもらうと、18キロと12キロもあり、郵送料を聞くと、航空便(EMS)で大きい方が6000円ほど、小さいほうが4000円もした。かなり高いが、これで送ることにした。本当は船便にしたかったが、取扱いしていないとのことだった。

何だかんだ忙しい日々が続いたが、以前からマニラに住む日本人の知人からセブ島へ行かないかと誘いがあり、この忙しい時期にどうだろうかと考えてたが、おそらく今後行く機会はないものと思い、行くことにした。これについては次号で報告したい。

